

甲賀市第 4 次障がい者基本計画等
策定にかかるアンケート調査

調査結果報告書（団体）

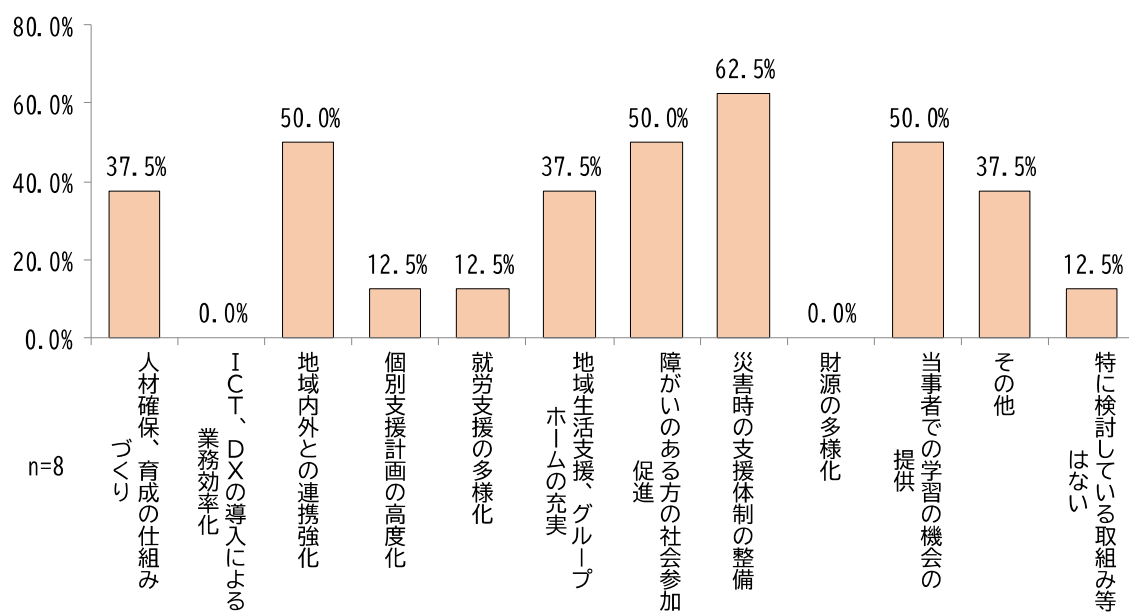
令和 8 年 3 月

甲 賀 市

問1 団体の取組み

団体としてどのような取組みをされていますか。また、今後の取組みや検討していることはどのようなことですか。

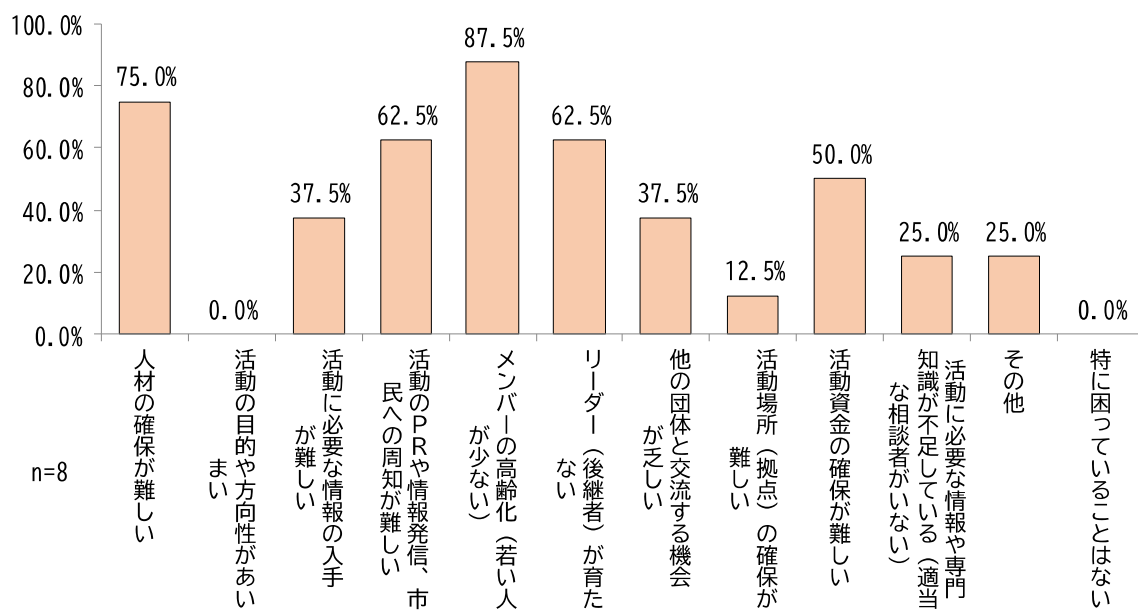
「災害時の支援体制の整備」「地域内外との連携強化」「障がいのある方の社会参加促進」「当事者での学習の機会の提供」の意見が多くなっています。



問2 活動や運営の課題

活動や運営にあたって、課題となっていることはどのようなことですか。

「メンバーの高齢化（若い人が少ない）」「人材の確保が難しい」「活動のPRや情報発信、市民への周知が難しい」「リーダー（後継者）が育たない」の意見が多くなっています。



問3 連携に対する考え方

地域や他の団体との関わりの状況及び連携することの必要性について、どのようにお考えですか。
また、貴団体が活動するうえで、他の団体に協力してほしいことはありますか。

他障害の方との連携することの必要性は感じているが、だきあわせが難しい。
甲賀市ボランティア連絡協議に登録している。聞こえない、聞こえにくいこと理解をしてほしい。ボランティア交流会でカラオケやカルタなど聴覚障害者は楽しめない。
障害者の就職で障害者就労支援団体の支援活動が支援されている様には思えない。障害者にどのような就職が適しているのか、障害者の実情に応じた支援内容をして頂きたい。
甲賀市育成会も消失し、甲賀市全体障害者団体はないに等しい。茶話会のみなどの集まりはあるようだが甲賀市に動いている団体・人に出会ったことがない。
・民生委員児童委員の方との繋がり、情報が見えない中で連携ができるか疑問
市や地域を越えた相手との交流や情報交換が必要。地域との連携は大切。いろいろな方と関わることで、障がいのことを知ってもらえる機会が増える。

問4 各分野に対する考え

(1) 地域で安心して暮らすことができる相談支援体制の推進

障がいのある人が、障がいや生活の困りごとについて気軽に相談するために、どのようなことが必要だと思いますか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

相談窓口に対する意見

・行政窓口相談があった場合に、即座に適切な対応ができることで信頼性が高まり親密せいも高まる。 現況はどうでしょうか。＊行政に相談された内容を、育成会（相談員等）に情報提供していただきたい
窓口を増やす。相談窓口の増加や周知。気軽に相談できる人、場所、つながりが必要。ちゃんと相談できる人が必要。福祉関係の方でも、状況とずれているアドバイスをくださる方では期待する結果につながりにくい。困り事ができてから相談するのではなく、日常的なつながりが必要。気軽に行きやすく、寄りやすい場所。顔見知りの人がいる場所が必要。
市役所に相談に行けば丁寧に相談に乗ってくれるが、なかなか行きにくく、行けないのが現状である。
気軽に行って相談もできる、子育て支援センターの障がい児・者バージョンがあったら安心。信楽や土山の人が遠くなりすぎない場所にそんな場所があると嬉しい。市役所の一部や、3月に閉まる貴生川のみなくち診療所の建物を活用して、そのような場所を作ってほしい。
現場の話を聞く傾聴ボランティアのような、市と連携できる部署があればいいと思う。相談に来てくださいという形ではなく、出前のような話を聞きに来てくれる形だと話やすい。自ら相談に行くにはハードルが高く感じる。
すぐに相談できて、必要なところに繋いでくれるケアマネージャーのような存在がいてもいいと思う。
わかりやすい窓口（相談所）が1つあれば嬉しい。

体制に対する意見

障害福祉課と高齢の連携がとれていない。担当者が把握していない。
気軽に相談できる公的機関が必要です。移動される方ではなく、専門職として常時いていただきたい。
専任手話通訳者に相談する。ピアカウンセラーがいてほしい。相談支援体制が必要。
困りごと等を気軽に相談できる場所を作りたかったので、2年前に閉庁2時間前の活動をおこなったが場所の確保・人材確保・金銭的な問題で継続できなかったが、まさしくそんな場所が甲賀市には必要であると思う。気軽に相談・アドバイスを受けてもしくは傾聴することで、ストレス発散・必要な時は行政への橋渡しを行う。色々な居場所づくりから市民活動へのつながる場でもある

その他

気軽に障害者相談員に話しかけできると！PRをお願いしたい。市の広報にも取り上げて頂きたい。

（２）障がいのある子どもへの継続的な支援

子どもの発達や子育て支援のために、どのようなことが必要だと思いますか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

福祉教育・教育環境

必要だと思っている。制度は便利になりつつあるが、周知できていない。
どんな子供でも、安心して暮らせる、気を使わず、普通の人として生活できる、将来も不安のない様に、そんな地域であってほしいです。
聞こえない、聞こえにくい子どもの相談は、滋賀県立聴覚障害センターへ繋いでほしい。聞こえない、聞こえにくい親がいる子どもへの支援が必要。
市障害者更生会にも加入して、会員同士の親睦旅行、親睦スポーツ大会、等も参加して頂き障がい者と障がいを持つ子供、親のみなさんとも交流を通して相互理解を深め合う付き合いを推進すること。
特性理解・環境づくりを学ぶ・家庭でも療育が必要。生涯療育は必要。父母が、愛情をもって育てることができ環境体制と支援。会として・また他の団体や個人と協力して障がい理解・啓発活動・相談カフェ等を行ってきましたが会継続していくには資金力・人材力の減少のため、現状維持するのが精いっぱい。年間６回ぐらいの活動会としてまた個人の子育て経験から甲賀市の必要な取り組みをお伝えすることはできる。
・早期の支援が重要であり、教育現場等で障害の特性を理解した人材が確保されていること・こじか教室の現況がわかりません。利用度や効果等の課題把握を＊県育成会が主体となって、「びわこメダカ隊」活動を県内各地の小中学校等で実施しており、甲賀市でも利用していただきたい。甲賀市の新人職員の研修で利用していただいています。
将来を見据えた支援教育。保育園から小学校や進級時または養護学校高等部からの就職や事業所へ通う際など。１年１年次につなげてほしい。１年間担任や担当をして終わり、また次の年は１から関係作りや支援をするのではなく、次の場所の担当に必ず引き継ぎつなげてほしい。親も必要なことをお伝えする。草津にある口腔衛生センターのような障がいのある人のための病院が増えてほしい。近所の病院でインフルエンザの検査を受けたときに、子供が暴れて、嫌な顔をされてから行きづらくなってしまった。幼児期からの支援が大事。生活する場所や通う場所が変わっても、途切れることのない支援。障がいのある人に関わる人たちが集まって、情報を共有したり話し合ったりする時間が必要。

（３）障がいのある人の地域生活の受け皿づくりと自立生活への支援

障がいのある人が地域で生活していくためには、どのような支援（地域での受け皿、在宅医療や福祉サービスの充実、住居の確保など）が必要だと思いますか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

相談先・専門性

・若い方の集える相談支援の充実・GHに移行することが難しいと思う親の不安を払拭するのは、対応できる人材確保が重要＊ペアレントメンターとして利用していただくこともできるかも＊相談員の有効活用
--

地域の理解・コミュニティ

地域見守り体制の潤滑化。

障がいへの理解を広げる場。地域の人たちの障がいに対する理解、受容。施設の増加と福祉サポートの充実。高校生以上が生活できる家庭以外の場所の充実。グループホーム等。
--

全般にわたる支援

教育現場での総合学習や地域の出前講座を通して聴覚障害者への理解を広めたい。引き続き、甲賀市から依頼があれば、協力していきたい。公共施設では聴覚障害者への合理的配慮をお願いします。

障がい者への障がい別の理解と一般社会（地域社会）での障がい者への自立支援（地域自治会役員の登用等）できそうな仕事、手伝いはやってもらえる環境。又、重度の障害者家族には一定程度の出夫や食費等の軽減措置を取って頂く様に求めます。
--

地域生活できる受け皿が甲賀市にはないに等しい。利用希望しても利用できない現状。医療も不足しているので、専門性のある医療は甲賀市にはないため市外を利用するしかない。福祉サービスも受給はあるが、利用できるサービスは全くないといっても過言ではない。みんな困っている。反対に質問させていただきますが、団体に何をお望みなのでしょうか？
--

（４）障がいのある人が地域で働ける環境づくり

障がいのある人が働くためには、どのような取り組みや支援が必要だと思いますか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

企業の理解・協力

会社、職場の理解が必要。短時間でも、その人の障害に応じた就労ができるようになってほしい。誰でも、いつでも障害者になってしまうという事を、周知してほしい。特別な目で見ない様、常に地域に呼びかけてほしいです。
聴覚障害者を雇用している企業は、情報保障をしっかりとしてほしい。
地元の企業や商店で雇用促進率にこだわらないそれ以上の障がい者を受け入れて頂く考えを持って頂く指導をお願いしたい。障がいの程度に応じた仕事の提供や指導。

職場環境の整備

超高齢化対策として就労支援の体制づくりが必要。
本人中心とした障がい特性理解と適切な対応と構造化・視覚化を可能な限り同じ対応でできるように支援者とも連携をしていく。企業に啓発活動が必要。つなげる人材が必要。会として、本人中心とした連携の大切さをお伝えすることはできる。
・需要に即した施設の運営・知的障がい者の就労については、課題が多くあり、可能性のある者に対して、企業の理解、本人への支援等長期的な対応が必要で現況はどうか。
働く場所を増やす。それを担う人材や資金の確保。細やかな支援が必要なので、支援していただく職員さんの人数と知識が必要。障がいのえる人に付き添ってゆっくり教える時間を作る。働く先の方がその人の特性を理解している。

(5) 障がいの有無に関わらず情報格差のないまちづくり

令和3年10月1日に甲賀市手話言語及び情報・コミュニケーション促進条例が施行されましたが、日常生活等で変化を感じることはありますか。

障がい者の情報アクセスとコミュニケーションの権利が保障される社会の実現に向けて、何が必要だと考えますか。また、日常生活や外出時に不便に感じていることや配慮が必要なことは何ですか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

条例

条例ができて、市民全体に周知されているかは疑問。企業や地域社会の取り組みは、格差もありまだまだ周知不足と感じます。障がい者に直接できているか聞いてみてください。不便な生活をされている人は多いと思います。例：市役所の案内も文字が多く、ピクトグラムなど視覚支援を取り入れは希望しても実現していない状況です。

その他

きめ細やかな家庭訪問が必要。
①変化を感じない。 ②社会全体で障がい者への理解を深めること、 ③無人駅が増えてきている。コロナ禍以降マスク着用が普通になり私たちは口元が見えないので困る。
聴覚障がい者に対する手話通訳者は大分増えてきていると思いますが、視覚障がい者に対するガイドヘルパーの人を呼んだ場合の費用の件で問題が発生しています。支援団体等の関係で何か問題があることも少し聞きました。よく調べて頂いて、よくなる指導をお願いします。
・コミュニケーションの方法に視覚支援があるが、知的障がい者本人が活用するのは、支援者との情報交換が主流と思うが、行政窓口での利用度はどうでしょうか。 ・殆ど保護者や支援者の付き添いで外出になるので、変わった点は見えない。
誰がどこへ行っても、わかりやすい表示や看板。

(6) 障がいの有無に関わらず誰もが人権尊重されるまちづくり

障がいのある人への市民の理解を深めるために、何が必要だと考えますか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

地域住民の理解・協力

学校教育の場でも多様性・障がい理解等関わり合いや話し合うこと・触れ合うことの大切さを学ぶ事が子も親も必要。地域社会が理解するための機会が必要。子育て中は、他の母子からの冷たい視線に悩んだり嫌な思いをする経験はほとんどの親が経験している。講演会・研修会もしましたが、資金力・人材不足で最近はできていません。地域理解のために草の根的に知っていただく方を増やしていくこと。

・啓発活動を継続すること・身近な地域では障がい者としての認知はあるが、どのような障害なのかは理解するまでは達していない*参考になる資料があれば提供したい。

人権学習

人権学習の機会を増やす。障がいのある人もない人も一緒に楽しめるイベントを開催する。イベント等があれば団体として積極的に参加したい。

人権教育の促進。小さい時からの交流。小さい時から交流があると、大人になってからも自然に対応できる。障がいのある方と関わる時間を持つ。

その他

離合集散の密度を濃く活動できるような環境体制。

(7) 誰もが安心できるバリアのない快適なまちづくり

障がいのある人が、地域や社会に気軽に安心して参加するために、市や地域社会にどのようなことを期待しますか。また、貴団体としてできることがあれば教えてください。

心のバリアフリー

総合理解
障がいのある人への差別やへんけんを無くなること。
障がい者を別種の人物と見ないで、社会の一員であるという習性を持って頂けるまで呼びかけること。防災計画等自治会で考える時は障がい者の考えを聞くこと又は本人を役員として入れる配慮が必要。
障がい特性理解・多様性を理解し受け入れられる社会の構築。環境づくり。障がいがあってもそうでなくても一人一人が持てる力を発揮して幸せに暮らせるまちづくり。
障がいに対する理解。

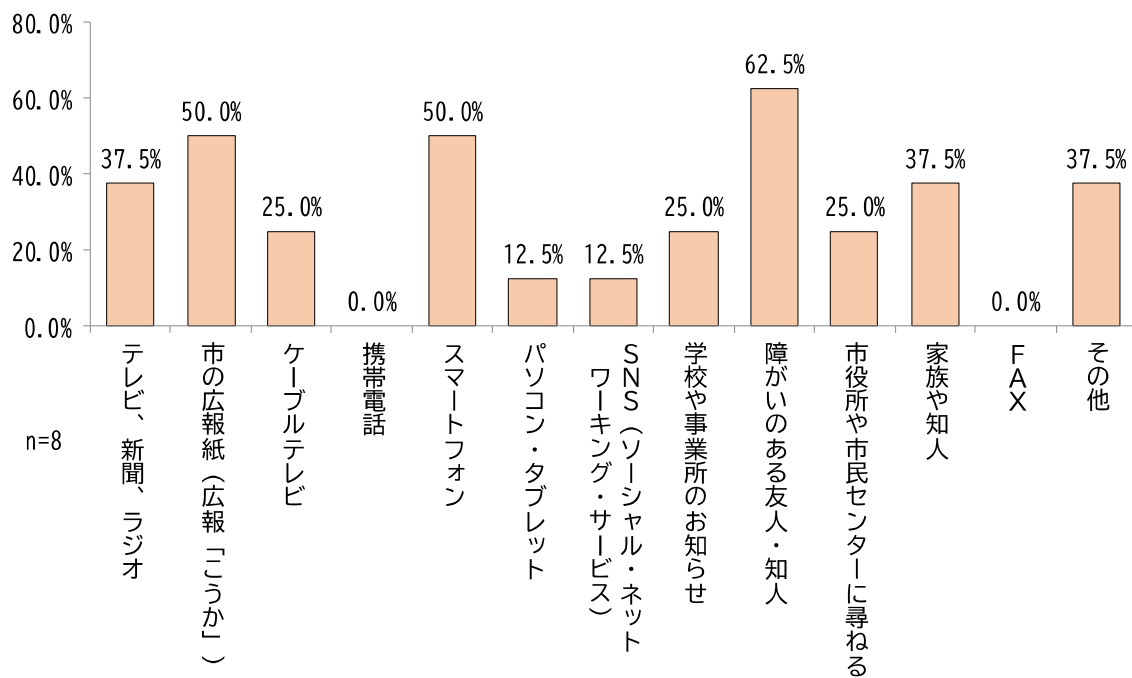
施設整備

・参加するための情報の公開方法や交通手段、施設からの参加の推奨とバックアップ・若い人が相談し易い環境の創出と寄り添い
相談サポートセンターも機能していない感じがする。
親なきあとの暮らしの支援（グループホームなど）
集うための拠点づくりの支援

問5 市や福祉に関する情報の入手方法

市や福祉に関する情報をどのように入手していますか。

「障がいのある友人・知人」「市の広報紙（広報「こうか」）」「スマートフォン」の意見が多くなっています。



問6 まちづくり

障がいのある人もない人も、住み慣れた地域で、自分らしく生きることができる「まち」になるために、今後充実してほしい施策などについて、自由にご記入ください。

制度の明確化。(誰にでもわかりやすい制度)。専門的な制度はわかりにくい。
市の行事として事ある毎に、少しでも、障害者の話を入れていってほしい。誰でもなってしまう可能性がある、障害者は特別ではない、その人の特性としてとらえてほしい。
・災害時の支援体制 聴覚障害者用情報受信装置を市内指定避難所や市役所に設置してほしい。災害時に字幕や手話付きのニュースを見ることができ平常時は手話に関する動画を視聴することができるので手話の啓発学習ができる。 ・あいコムのテレビ番組に全て字幕をつけてください。
ある地域によっては障がい者を“クサイモノ”には蓋をの考えを持つ年配者がおられて生活しにくい。生活環境を訴える場所も。各地域の人権研修も充実してほしい。
障がいを持つ保護者は誰もが自分が亡くなったらこの子はどうなるのかという不安で生きています。安心できるのは今は通っている作業所の協力を得て、安心できるグループホームに暮らしていけることが望みです。そのためには、作業所とも連携を取り考えていっていただきたい。
地域理解と環境整備 福祉事業所・GH の不足放課後デイサービスの意味を理解し(療育)家庭でも療育的子育てが行えるように、利用するにあたっては親の研修を付ける。強度行動障害理解を学校教育で先生方にも作業所職員にも深めていく。
・障害の有無に関係なく市民が自由に集える場所の創出(既存施設の有効活用) ・GHの重要度が増しているが、施設や人材の面で多くの課題がある。住み慣れた地域で生活するために安心できる体制が早急に必要であることを理解していただきたい。
障がいがあってもなくても、気にせず参加ができる場所やイベント等の開催。障がいのある人たちによるイベントを行い、障がいのない人たちに参加をしてもらう。障がいのある人もない人も参加できる催し。障がいのある人が躊躇せず参加できる催し。

問7 ご意見、ご要望

市の障がい福祉施策に関して、ご意見、ご要望がありましたら自由にご記入ください。

問い合わせしてから対応が多いので改善して欲しい。毎年の報告している件の追跡情報が欲しい。
障がい福祉課の窓口は、傷つきやすい人が来る可能性があるので、真心をもって対応してほしいです。
市と聴覚障害者協会の懇談会を必ず実施してほしい。緊急時、夜間等24時間連絡ができるよう（市と）体制を整えてほしい。ブルーライト企画を毎年してほしい。
災害時の福祉避難所は2ヶ所と聞いておりますが、障がいに応じての避難者の受入体制を決めておられない所もある様子です。充実した受入が出来る様に指導の方もお願いします。
・いわゆる“ゆりかごから墓場まで”生涯にわたってステージごとの支援を“障がい児者支援システム”の構築を望みます。今ある発達支援システムに追加してサポートの継続連携 ・将来を見据えた支援体制を視覚化する。 ・親亡き後も地域で生きていける支援体制 ・生活介護の方が利用できるGHが必要。 ・障がい福祉作業所の開設 ・行動援護 ・移動者支援 ・ショートステイが利用できるようにしてほしい。 ・本人を中心とした支援体制を家庭も含めて理解し同じ支援ができるように支援連携体制をつくる。
・入所施設やGHを待機状態で、親と同居する知的障がい者は多いと推定している。「親なきあと」の不安を相談できる窓口が在って欲しい。（おおいたモデル相談室を参考までに添付します）
子どもの支援に直接関係しない家族の個人情報や家庭の事情については必要最小限にさせていただけると助かる。障がいのある人たちの現状をもっと知ってもらいたい。※アンケートは会員の皆さまに周知して回答をもらい、その内容をまとめさせていただきます。よろしくお願いいたします。